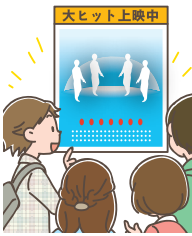



★ 同じ言葉は、いつでも 同じ意味で使われるの？

くみ 組 ばん 番

なまえ

| | |
|---|--|
| ② | ① |
| <p>新しい映画は若者にうけた。</p>  | <p>このギャグうけるね。</p>  |
| | |

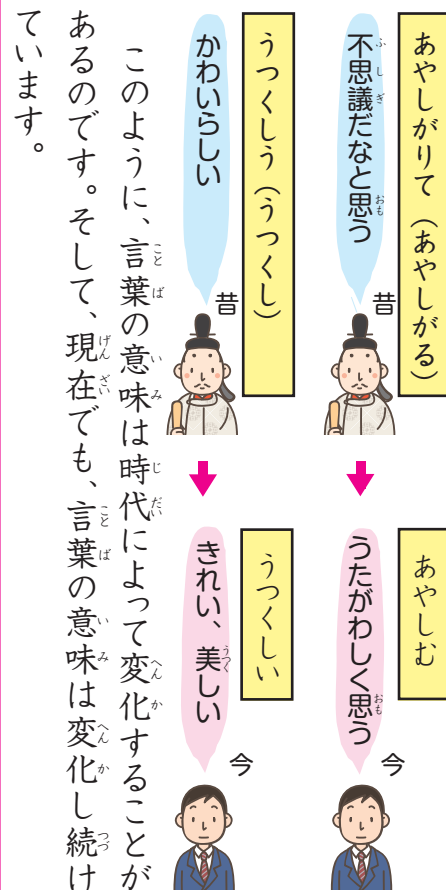
★ 「うける」という言葉を使った、次の①・②の文を、ほかの言葉で言いかえてみましょう。どのように言いかえたか、まわりの人と話し合ってみましょう。

竹取物語

今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。◀一部省略
その竹の中に、もと光る竹なむ一筋ありける。
あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。
それを見れば、三寸ばかりなる人、いとうつくしう
てゐたり。
『新編日本古典文学全集』(小学館)より

昔、竹取の翁という人がいました。◀一部省略
ある日のこと、その竹林の中に、根元の光る竹が一本あり
ました。不思議に思つて、近寄つて見ると、筒の中が光つて
いました。それを見ると、三寸(約十センチメートル)ほど
の人が、とてもかわいらしい様子ですわっていました。

「竹取物語」に出てくる言葉には、昔と今で、使われ方や言葉の意味が変わったものがあります。例えば、「あやし」「うつくし」という言葉の使い方は、昔と今で次のように変化しました。



「竹取物語」の本文は読みやすさを考えて、表記変えを行いました。